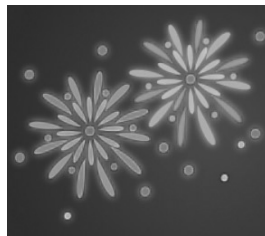


農業



令和3年8月号
会誌 No. 1680

目次

巻頭言

東京オリ・パラ 食の力で選手を元気に……………合瀬 宏毅 3

論壇

プランツを食べる処方せん……………宮田 恵 4

春期中央農事講演会

持続可能な食料システムに今なぜ注目？……………日比絵里子 6
—SDGs 実現に向けて—

農事功績者座談会

着色系統の育成や剪定技術の開発でリンゴ産業を牽引……………古幡 芳明 20

研究の最前線

リンゴ・ナシの収穫ロボット開発と実用化に向けた課題……………深尾 隆則 35

農業・農村の現場から

ナガイモ輸出の現状と課題……………石塚 哉史 41
—北海道における産地農協の事例を中心に—

世界の農業は今

メキシコ 対米野菜輸出急増の光と陰……………谷 洋之 47

私の経営と志

リンゴ農家の経営と伝えて行きたい普遍の価値……………木村 将瑛 53

食を楽しむ

宮古市の夕焼け……………鈴木 嘉之 55

統計情報

乳用牛・肉用牛の飼養戸数・頭数の推移（全国）（2021年2月1日現在） …… 56

農政情報

大日本農会だより…………… 58

編集部から…………… 58

会誌「農業」に関するアンケート

表紙写真説明

**「シャインマスカット」の出荷調整と箱詰め作業
（岡山県倉敷市）**

岡山県の「シャインマスカット」の栽培面積は211haで、ブドウでは「ピオーネ」に次ぐ栽培面積となっています（2020年，県農産課調べ）。

本県の「シャインマスカット」は12月加温栽培から簡易被覆栽培までの作型があり，一部の産地では冷蔵にも取り組んでいるため，出荷は8～10月を主体に5月下旬～12月下旬まで行われています。このうちJA全農おかやまを通じて出荷され，出荷基準を満たしたものを「晴王®」と称して出荷しています。主な出荷形態は5 kg コンテナや2 kg 箱および1房入り化粧箱等です。古くから続く温室ブドウの産地では化粧箱を主体に出荷するため，写真のようにハウス内で収穫と箱詰めの両方を行うのが一般的です。

本県のブドウ栽培の特徴としては，①平行整枝による短梢せん定，②狭い耕地面積で高品質を追求する細やかな栽培技術，③大粒でボリューム感のある肩まで締まった房づくり等が挙げられます。加えて「シャインマスカット」については，品質や選果レベル統一のため定期的を目ざろい会を行う等，生産者やJAグループと県が一体となって推進しています。

（写真：岡山県農林水産部，文：岡山県農林水産総合センター
普及連携部普及推進課 田村 光佳）